

くまもとアートポリス 対象プロジェクトへの 参加募集

公共・民間を問わず、くまもとアートポリスへの事業参加を求めています。くまもとアートポリス・コミッショナー磯崎新氏がプロジェクトにふさわしい建築家やデザイナーなどを推薦いたします。

レンゾ・ピアノ氏来熊

さる7月27日、レンゾ・ピアノ、ピーター・ライス、岡部憲明の3氏が牛深市を訪れ、牛深漁港に架かる新架橋の敷地を視察した。

3氏はパリのボンビドゥー・センター、大阪に建設中の関西新国際空港の設計でチームを組む国際的に活躍する建築家、構造設計家だ。

熊本県庁で細川知事と会見した後、船で牛深入り、一行は牛深市長とともに丘に登り、新しい橋の構想について意見を交換した。

今回の架橋は、牛深漁港整備計画の一環をなす。現在の牛深港から荷捌き、加工場整備を後浜に移したのにもない、陸上輸送のための道路は市内を通過せずに海上を通過する、そのための橋である。

「牛深の海の玄関に相応しく、周囲の民家のスケール感を乱さないデザインを考えなくてはならない。そのためには、橋の足元をグリーンで覆われるようにして環境になじむことを考えたい」とピアノ氏は構想を語った。

くまもとアートポリス 公開設計競技参加募集 熊本県営住宅帯山A団地

くまもとアートポリス対象プロジェクトのひとつとして、県営住宅帯山A団地が、公開の設計競技とされることになりました。近接して同じKAP対象プロジェクト県営住宅保田窪第一団地(山本理顕氏設計)が建設中です。ふるってご応募下さい。

件名: 熊本県営住宅帯山A団地

住戸数: 52戸以上

敷地面積: 4,900m2程度

審査員: 磯崎新氏(くまもとアートポリス・コミッショナー)

スケジュール(予定):

応募登録: 1989年10月

応募図書受付: 1990年2月初旬

問合せ: 熊本県土木部住宅課

tel: 096-383-1111(6246)



上 牛深港にて牛深架橋の建設予定地を視察する。手前よりレンゾ・ピアノ、ピーター・ライス、岡部憲明の各氏。

●くまもとアートポリスへのご意見、ご感想など事務局までお寄せください。また、くまもとアートポリスニュースでは次号から読者欄を設ける予定です。アートポリス関連、または関連外のまちづくり、建築環境に関するニュース、出来事、イベント情報などお寄せください。(編集部)

関連出版物

ポスター、パンフレット、
アートポリスニュース

くまもとアートポリス事務局では、すでに以下の出版物を制作しております。

1. 「くまもとアートポリス・パンフレット」
2. 「くまもとまちづくりシンポジウム報告書」
3. 「くまもとアートポリス・ポスター」
4. 「くまもとアートポリスニュース01」
5. 「くまもとアートポリスニュース02」

これらの出版物をご希望の方は「くまもとアートポリス事務局」熊本県建築課内までご連絡下さい。

tel 096-383-1111<内線6220/6221>

KAP参加プロジェクト特集

02



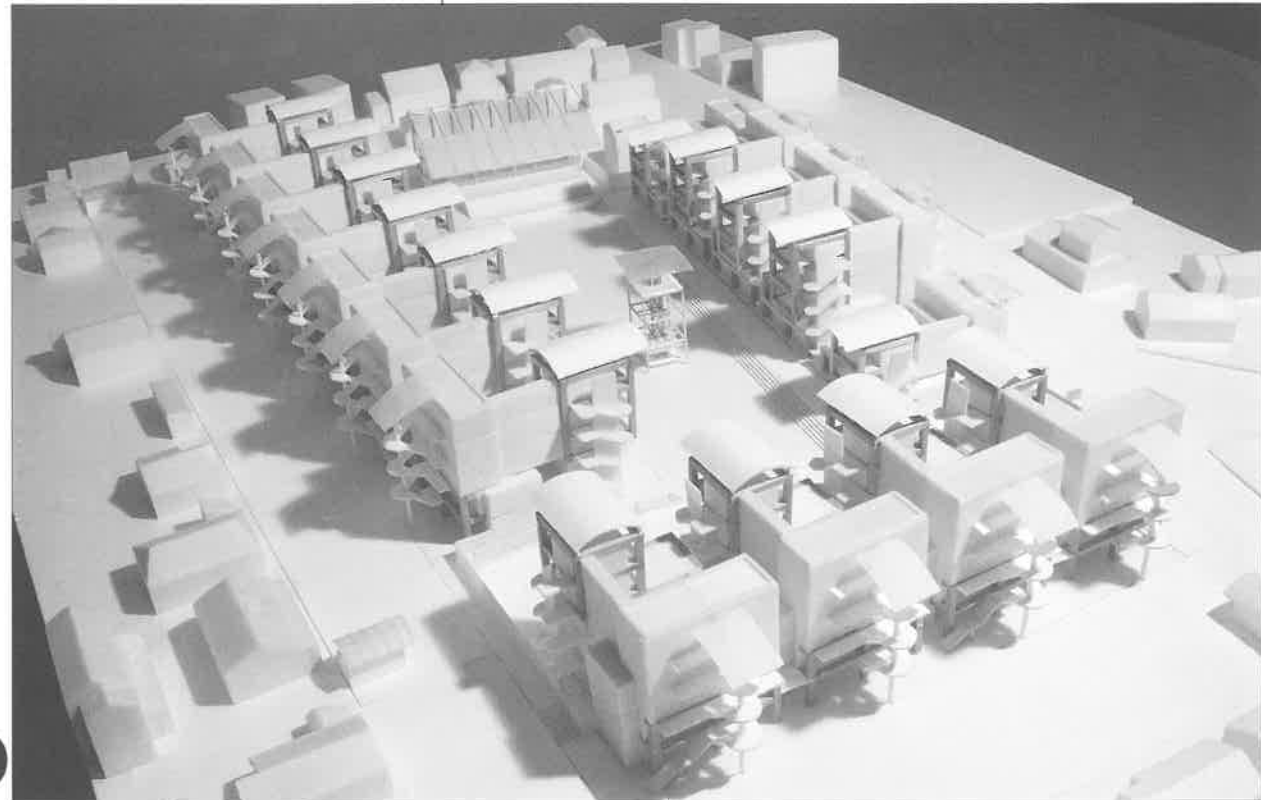
発行: くまもとアートポリス事務局
熊本県土木部建築課内 熊本市水前寺6-18-1
tel 096-383-1111 (6220 / 6221)
編集: くまもとアートポリス コミッショナー事務局
東京都渋谷区渋谷2-5-7 本間ビル
建築・都市ワークショップ内
tel 03-407-4753
1989年10月7日発行

表紙模型写真 熊本市営新地団地
設計 早川邦彦/緒方理一郎/富永謙/西岡弘/上田憲二郎

8910 K.A.P

02

kumamoto artpolis



2

●県営保田窪団地で試みられたことについて伺います。

集合住宅が一戸建ての住宅と違うんだということが、今回の団地設計の上でも強く反映されているということですが……。

今まで集合住宅は一戸建てに住むまへの、仮の住居というように思われてきたように思います。でも、そのことはそんなに古くなくて、多分戦後の池田内閣時代の頃に確立したことです。それまでは借家が常識だったし。

その原因のひとつにはみんなが共感するような集合住宅のモデルが日本にはなかったということがいえると

思うんです。わざわざ集まって住むことの良い見本がなかった。

その一方では、一戸建てのメリットというのは、わかりやすいと思います。誰にも干渉されないで住むことができますから。これがある意味で戦後の日本の文化や社会の基盤にあったんですよね。しがらみをしよい込まないで、干渉し合わないようによいでしょう。

ところで、戦後、集合住宅は数多く日本でも作られてきたけれども、この一戸建てに対する反論がない、集合のメリットが見つからない。

つまり、集合住宅のルール、共に住むためのルールというのがいまだに

発見されていないように思うんですね。

これはもちろん建築家にも責任があります。一見いろいろな提案がなされているように見えますが、やはり一戸建ての生活様式をむりやり集合住宅に押し込んだりしている。

●このプロジェクトでは、中庭を挟んで両側の棟に開放的なリビングルームが向き合っていますね。これはお互いに顔を向け合わないでという従来の集合住宅の配置とは正反対のものですね。

中庭の使われ方やテラスの使われ方に対して特別なアイデアが盛り込まれているんですか？

山本理顕氏は集落の調査や、いままでの住宅の設計の経験を生かした住居論を持っている数少ない建築家の一人である。住宅の設計を中心として新しい都市の住まい方を過渡する集合住宅の設計の考えを伺った。今回設計の団地にも屋外空間を生活の中に取り込んだ新しい生活空間の提案がある。

広いテラスにテーブルを持ち出して食事をするようになれば……。

中庭の一方に、ステージがあるんですが、ここで何か催し物などがある場合には、各住戸のテラスが客席のように使われることも可能です。ところで、この中庭は外部からは閉じられていて、この住宅団地に住む人たちの自主的な発案によって使われていけばと思っています。それに各住戸のかなり広いテラスですが、みんながテーブルを持ち出して食事ができるような広さを確保してあります。本当にここで食事してもらえたら、今までとは違う生活形態というのを実感してもらえないんじゃないかと思っています。

●くまもとアートポリスの企画に乗った建物ということで、注目を浴びることになると思いますが、他の山本さんの建築とデザインの方法は違う？

今回はとにかく集合住宅のモデルになれば、ということ強く考えました。良くいわれるトーフを並べたようなものじゃない集合住宅の形式があるんだということ、それに集合住宅には集合住宅なりのルールというものがあるんだということをわかってもらいたいと思っています。

●日本の集合住宅の住み方を確立させたいということですか？

ドイツのアパートに滞在していて思ったことですが、互いに周りを尊重する。つまり上の階の人に階段であ

ったら挨拶するとか、ラジオは9時以降になったら大きな音は出さないとか、当たり前のように聞こえるけれども、そのルールに対しては皆が責任を果たしているんです。これは、聞きようによっては、自分だけの城をとにかく確立しようということと考えられてきた日本の集合住宅の理想とは、相当な隔たりがあるように思います。でも、そういうルールを作り、あるときはそれによって不自由になることがあったとしても、集まって生活するということの楽しさを作り上げていくことのほうがより重要だと思うのです。

●ところで、テラス以外に建築的な新しい試みは？

地元の熊本県コンクリート工業組合が、この団地のために型枠コンクリートブロックを新しく開発してくださいました。柱の間の壁に使っていますが、これなんかは、他の団地なんかでも広く使ってほしいですね。

●建築ができあがって、その後、人によって住まれた時、はじめて山本さんのお考えが実現されるといえますね。

住み方のルールを目に見えるようにするには、建築しかありませんからね……。

つくるだけではなくて、つくられる間も、でき上がった後も、その住み方のルールについて話し合っていくべきだと思っています。(談)



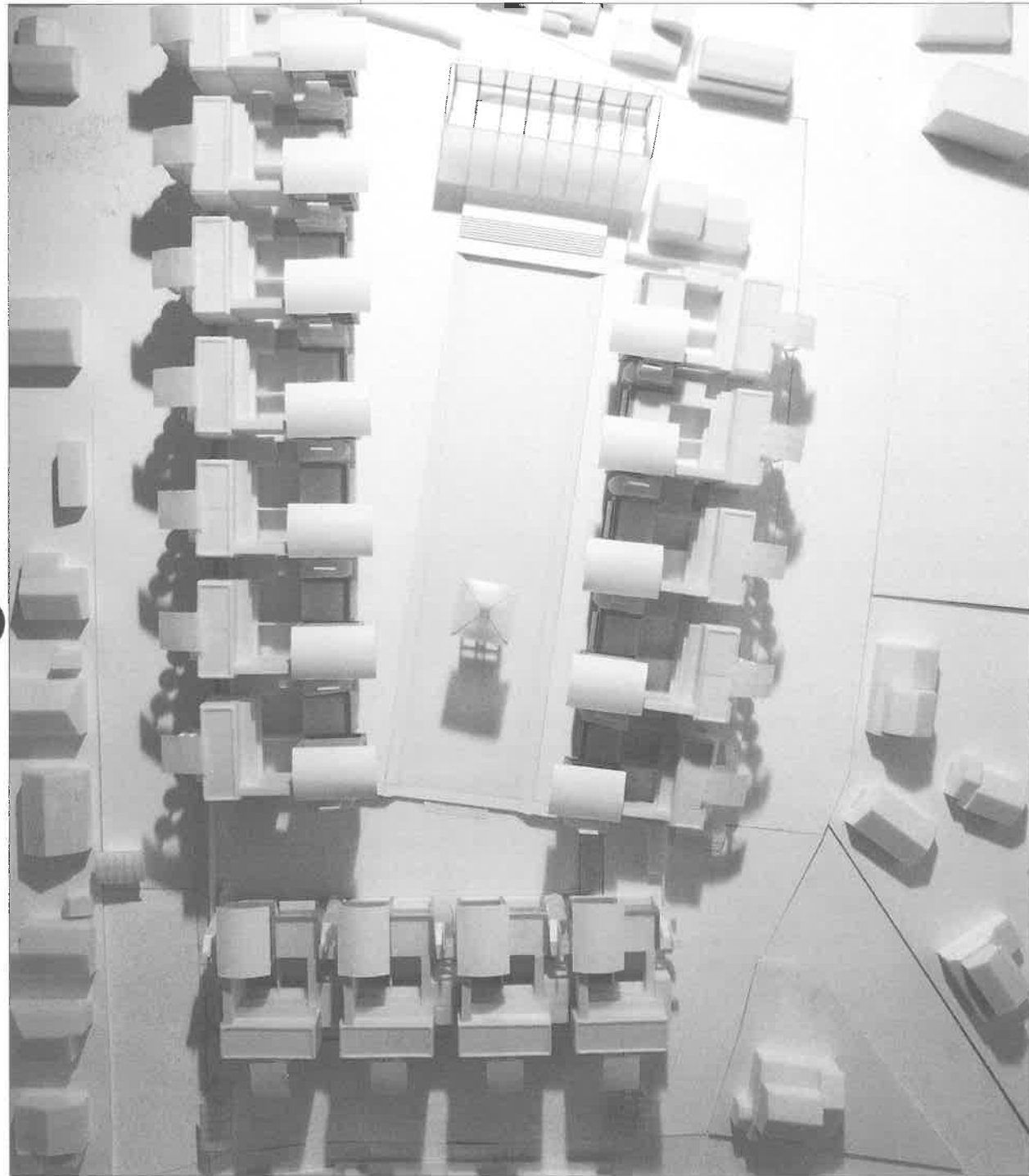
3

左ページ 全体模型上 住戸模型

●山本理顕(やまもとりけん)プロフィール
1945年横浜に生まれる/1968年日本大学理工学部卒業/1971年東京芸術大学大学院終了/1971年東京大学生産技術研究所原研究室/現在山本理顕設計工場主宰
主な作品
山川山荘/HAMLET/GAZEBO/横浜博覧会施設など

県営保田窪第一団地

設計 山本理顕設計工場
所在地 熊本市帯山1-28
主要用途 共同住宅

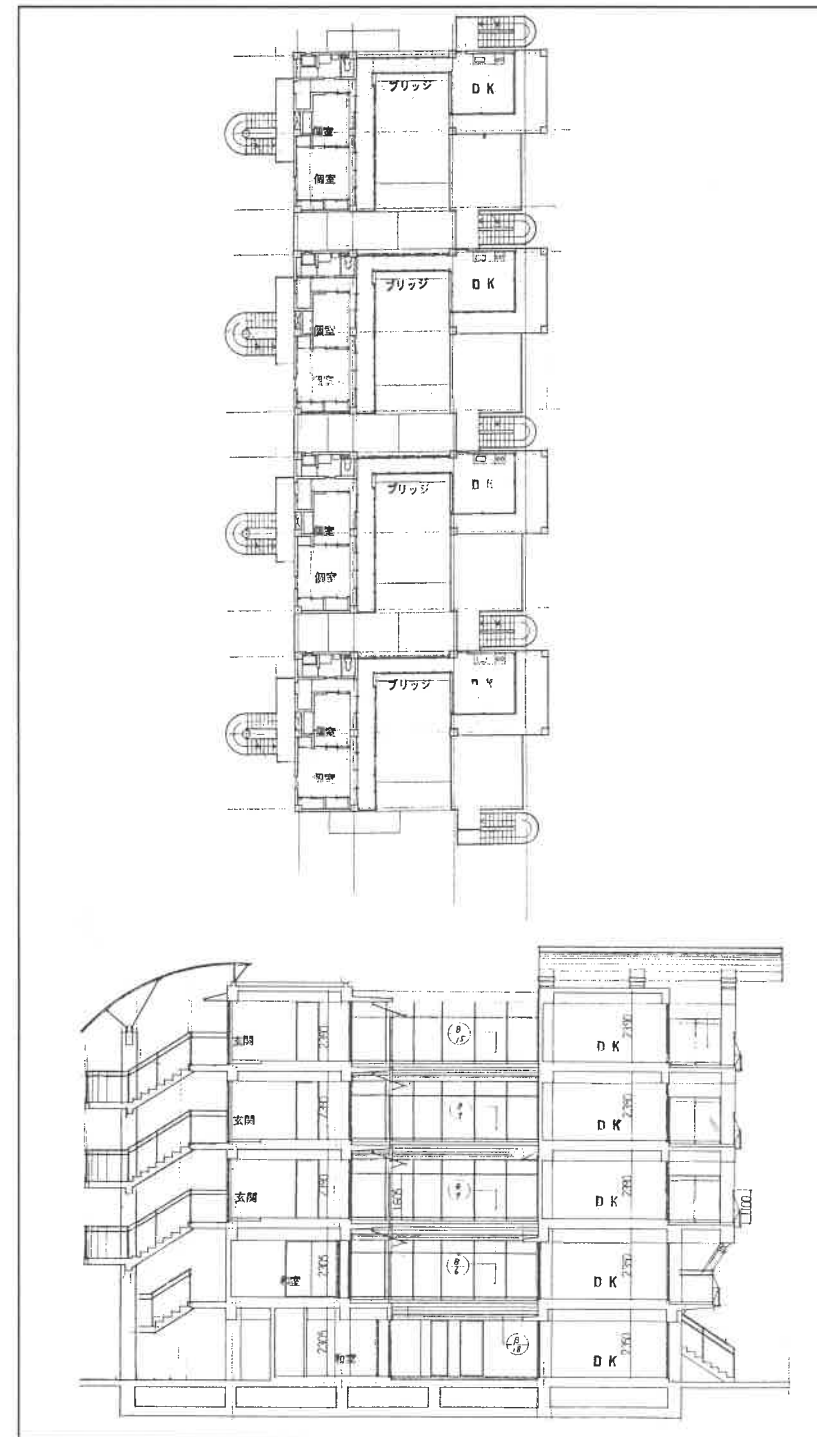


4

●県営保田窪第一団地
主要用途 集合住宅
設計 山本理顕設計工場
構造設計 今井構造事務所
設備設計 団設備設計事務所
積算 園建築積算事務所
施工 高橋建設、和久田建設
他の施工担当社 高浜電工社、上田商会、西部瓦斯

構造 鉄筋コンクリート(一部型枠コンクリートブロック
壁式構造)
敷地面積 11,184m² / 建築面積 3,386mm² / 延床
面積 8,604m²
地上5階/最高の高さ15.05m/主な階高2.755、2.705m

地域地区 第二種住居専用地域
道路幅員 西13m、北3.2m
基本構想期間 1988年7月~1988年10月
基本設計期間 1988年7月~1988年10月
実施設計期間 1988年11月~1989年3月
施工期間 1989年6月~1991年4月



5

主な外部仕上げ
床 土間コンクリート
屋根 ガルバリウム鋼板張り
外壁 コンクリート打放し、型枠コンクリートブ
ック
主な内部仕上げ(ダイニングキッチン)
床 ビニールタイル貼り
壁 フレキシブルボード張り
天井 コンクリート打放し

左ページ 全体配置
上 断面図、平面図

共に住むことは煩わしい。その煩わしさを解消するために、それぞれ孤立した住居の単純な寄せ集めこそ、共同住宅の配置計画としてもっとも相応しい、といった考え方も一方にある。箱型住棟が一定の間隔で並ぶような配置計画の主な理由もそこにあるわけである。

共に住むことはたしかに煩わしい。でも、ただその煩わしさが解消できればそれでいいという話でもないと思う。それ以上に「共に住む」ことが、孤立的に住むことよりはるかに有効なことだと確信できるような住戸計画、配置計画こそ、私たちに求められているものであるはずなのである。

「共に住む」ことは、今、都市の中では不可避である。しかし、いまだにそのためのモデルは明瞭になっていない。「共に住む」ためのモデルをつくりたいと思う。(山本理顕)

熊本市営新地団地(A,B,C,D,E)

設計 早川邦彦(A)+緒方理一郎(B)+
富永謙(C)+西岡弘(D)+上田憲二郎(E)
所在地 熊本市清水町新地
主要用途 共同住宅

新地団地A第1期---早川邦彦

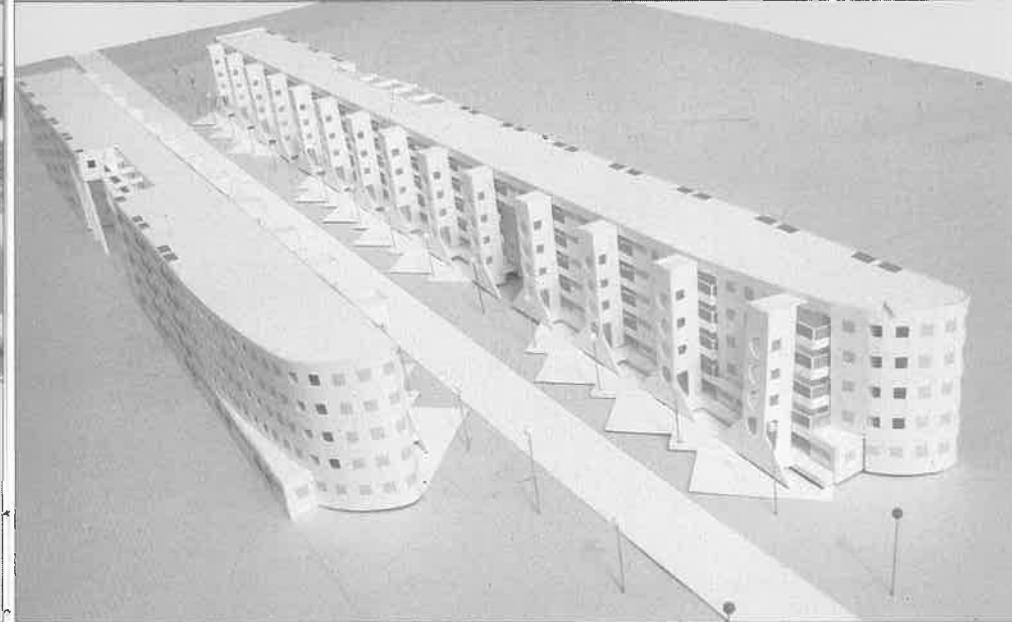
- 1) 親しみやすいスケール
2~3階建ての低層棟の導入をはじめとし、中高層棟に同一スケールのファサードを取付けることにより、全体が2~3層の親しみやすいスケールに感じられるよう考慮されている。それは周辺住宅地のスケールとの連続感を保つものともなる。
- 2) 裏表のない住棟表情
通常、北側の住棟は南側の住棟の単調な裏面(北面)に絶えず面する。そのような状況を避けるため、表(南面)と裏(北面)の表情は同じようになるよう計画されている。
- 3) パラエティのある住戸構成
低層棟で10タイプ、中高層棟で11タイプというように、従来までの同一住戸プランの反復に対し、ここではパラエティのある住戸構成が取られている。
- 4) 共有スペースの重視
住戸と住戸、住棟と住棟、さらに住棟群と道路や隣接住宅地、それらの間に生まれる共有スペースは集合住宅にとって重要な部分となる。低層棟の連続する中庭群、2~3層吹抜けのゲート、そして既存の地形を利用した5つのレベルとテクスチャーや素材がそれぞれ異なるベルト状の都市的オープンスペースなど、共有スペースの重視は本計画の骨子となっている。(早川邦彦)



●熊本市営新地団地A
主要用途 共同住宅
設計 早川邦彦建築研究室
構造設計 松井源吾・ORS、百田構造設計
設備設計 郷設計研究室
概算 園建築概算事務所
構造 鉄筋コンクリート造(壁式構造一部ラーメン構造)
敷地面積 65,000m²(団地全体)/建築面積 6,890m²
延床面積 19,381m²

地域地区 第二種住居専用地域
道路幅員 西7m、南7m、北7m
地上6階、地下1階/最高の高さ13.55m/主な階高2.6m/主なスパン6.5×11.2m
基本構想期間 1988年8月~1988年10月
基本設計期間 1988年10月~1989年3月
実施設計期間 1989年5月~1989年9月
工事期間 1989年12月~1990年10月

主な外部仕上げ
床 浸透性コンクリートカラー着色、瓦タイル貼り
屋根 露出シート防水
外壁 コンクリートの上リシン吹付けVP
主な内部仕上げ(食堂、居間)
床 フローリング張り
壁、天井 ビニールクロス貼り



●熊本市営新地団地B
主要用途 共同住宅
設計 緒方理一郎建築研究所
構造設計 坂本英俊建築構造事務所
設備設計 トーア建築設備設計事務所
構造 鉄筋コンクリート造
建築面積 4,001m²/延床面積 15,374m²
地上5階/最高の高さ14.5m/主な階高2.7m/主なスパン6.3m

地域地区 第二種住居専用地域
道路幅員 東7m、南7m、北7m
基本構想期間 1988年8月~1988年10月
基本設計期間 1989年1月~1989年3月
実施設計期間 1989年4月~1990年3月
工事期間 1991年1月~1991年7月

新地団地B第2期---緒方理一郎

あたかも対のクジラが遊泳するような住棟は波打つファサードと、ふたつの質の違う開口を持つ壁によって構成し、長大な退屈を避けた。住棟の間にあるモールはステージ、住棟は観客席として全体を「劇場」に見たてた。つまり、モールで日常的に子供が遊び、お年寄りが憩う。そしてときどき主婦のバザーや周辺の農産物の朝市、さらには団地の祭りなどのドラマが繰り広げられる。そのためにはモールに面した住戸の部屋が南側はともかく北側もパブリックなスペースになるようにサンタリーを中央に集約した。さらにすべての階段をモールと直結し、その階段に向かって開かれたテラスを各住戸につくり、縁側の付合いを可能にした。このように住戸内での家族はともかく、住戸同志の付合い、団地住民、さらには近隣の住民との交流もそれぞれのスケールで保障している。このように人間達のコミュニティを抱きながらクジラたちは市民の海を東へと目指す。(緒方理一郎)

上 全体配置
左ページ下 第1期、右ページ下 第2期

新地団地C第3期---富永謙

1) 県道に面する敷地の考え方---放射状の造成システムを敷地全体に

地形を尊重し、北下がり等の等高線に沿って、扇状に段状の造成パターン(放射状のシステム)を設定する。それに沿って樹木(楠)の列を配し線状の遊水池を張り巡らす。ノリ面は現在使われている島崎石(熊本城の石垣にも使われている)を使い、その裏側に駐車場を作り、県道を歩く人にとって車が目に入らないようにする。県道を歩く人は、ピロティを介して遠い北側の景観に向かって視界が開かれている。

2) 県道側ファサード---車のスケール

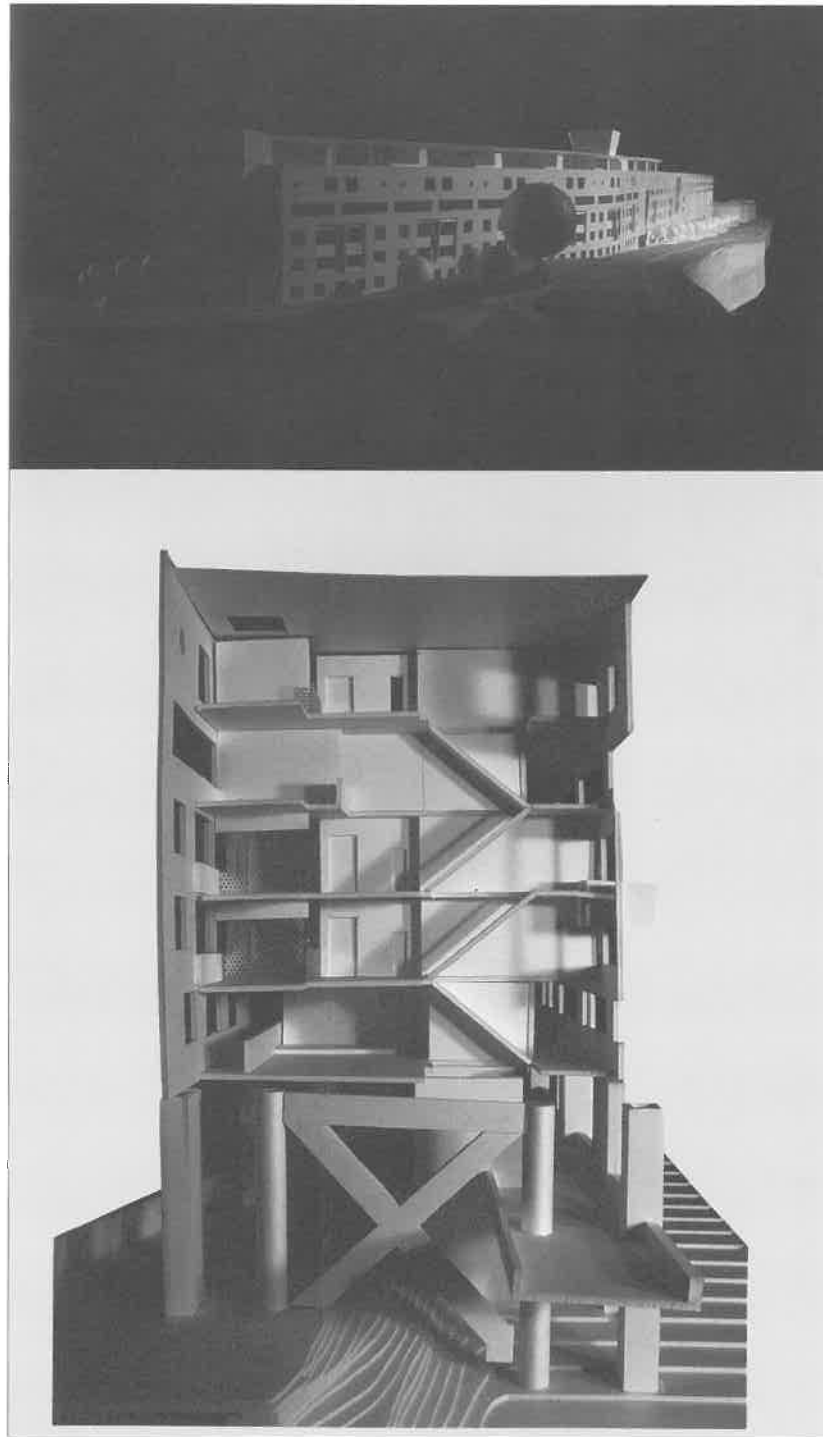
県道に面して、都市的なスケールを持つ中空に浮いた長大な帯状の面を設定する。西地区と東地区を結ぶべく途中で屈曲し、速度感を強める。

3) 住戸に対する提案---通り庭型集合住宅

現在住んでいる住居の環境、小さな境界の生活を崩さないよう、接地性の高い集合住宅の平面を提案する。階段室(公共空間)から通り庭的な空間(半公共空間)を通り抜け、囲われたテラス(専用空間)へとつながる、連続した生活空間を持つ住宅の提案である。(富永謙)

写真 左ページ 第3期
右ページ 第4・5期

●熊本市営団地C
設計 富永謙+フォルム・システム研究所
構造設計 松井源吾+ORS
設備設計 舞設計研究室
構造 鉄筋コンクリート造
建築面積 3,600m² / 延床面積16,265m²
地上7階/地下1階/最高の高さ23.5m / 主な階高2.8m / 主なスパン12.8×12.8m
地域地区 第二種住居専用地域
道路幅員 南13m
基本構想期間 1988年8月~1988年10月



基本設計期間 1988年10月~1989年3月
実施設計期間 1989年4月~1990年3月
施工期間 1991年6月~1992年8月
主な外部仕上げ
床 芝植込み+浸透性コンクリート
屋根 アスファルト防水+コンクリート押さえ
外壁 磁器タイル貼り、ホワイトリシン吹付け
主な内部仕上げ(民間)
床 長尺フローリング張り
壁・天井 コンクリート打放しの上EP

●熊本市営新地団地D
設計 西岡弘建築工房
構造設計 日本建築総合研究所
構造 鉄筋コンクリート造
地上3~4階/最高の高さ12.0m/主な階高2.8m/主なスパン6.45×9.15m
建築面積 5,212m²/延床面積 14,404m²
地域地区 第一種住居専用地域、第二種住居専用地域
道路幅員 敷地中央12m



基本構想期間 1988年8月~1988年10月
基本設計期間 1988年10月~1989年3月
実施設計期間 1989年4月~1990年3月
工事期間 1992年4月~
主な外部仕上げ
床 防水モルタル金ゴテ押え
外壁 コンクリート打放しの上カラークリア
主な内部仕上げ(厨房、食堂、洋室)
床 長尺フローリング張り
壁・天井 ビニールクロス貼り

●熊本市営団地E
設計 上田憲二郎建築事務所
構造設計 中山構造研究所、内田真寿美建築事務所
設備設計 大井設備設計事務所
造園設計 スペースデザイン設計事務所
構造 鉄筋コンクリート造
建築面積 4,890m² / 延床面積13,110m²
地域地区 第一種住居専用地域
道路幅員 東8.5m、西8m、南8m
基本構想期間 1988年8月~1988年10月

新地団地D第4・5期---西岡弘

県道の南側に既存の民有地を挟んで2棟(4A、4B、5B棟)、第二種住居専用地域の飛び地に円弧のファサードを持った住棟1棟(5A棟)とでひとつの住居群を形成している。南側の長い住棟は比較的交通量の多い県道の動きとスケールに合わせた都市的表情を持たせ、また、1~3期までの住棟のスケール感に対応させている。

眺望のよい北面の県道に面することから、住戸への階段は単なる薄暗い階段機能のみに終わらせず、居室と県道騒音との緩衝帯として新しい意味を持たせた。この階段の変化、特徴が他の2棟へも共通の建築言語として用いられている。

飛び地の第二種住居専用地域部分の住棟(5A棟)は、南側ファサードが県道に面するため、他の2棟とは意識的に表情を変え、局面を持ったファサードとしている。(西岡弘)

新地団地E第4・5期---上田憲二郎

スモールコミュニティグループを形成する装置として、小さなユニットで共通空間を意識させる。

外部を共用スペースとする格子、路地、囲まれた空間、より広い野原へと連続した広がりを持つ。各住戸はL型プランとし、全室が両面開放されて、通風、採光が確保され、構造上も有効である。

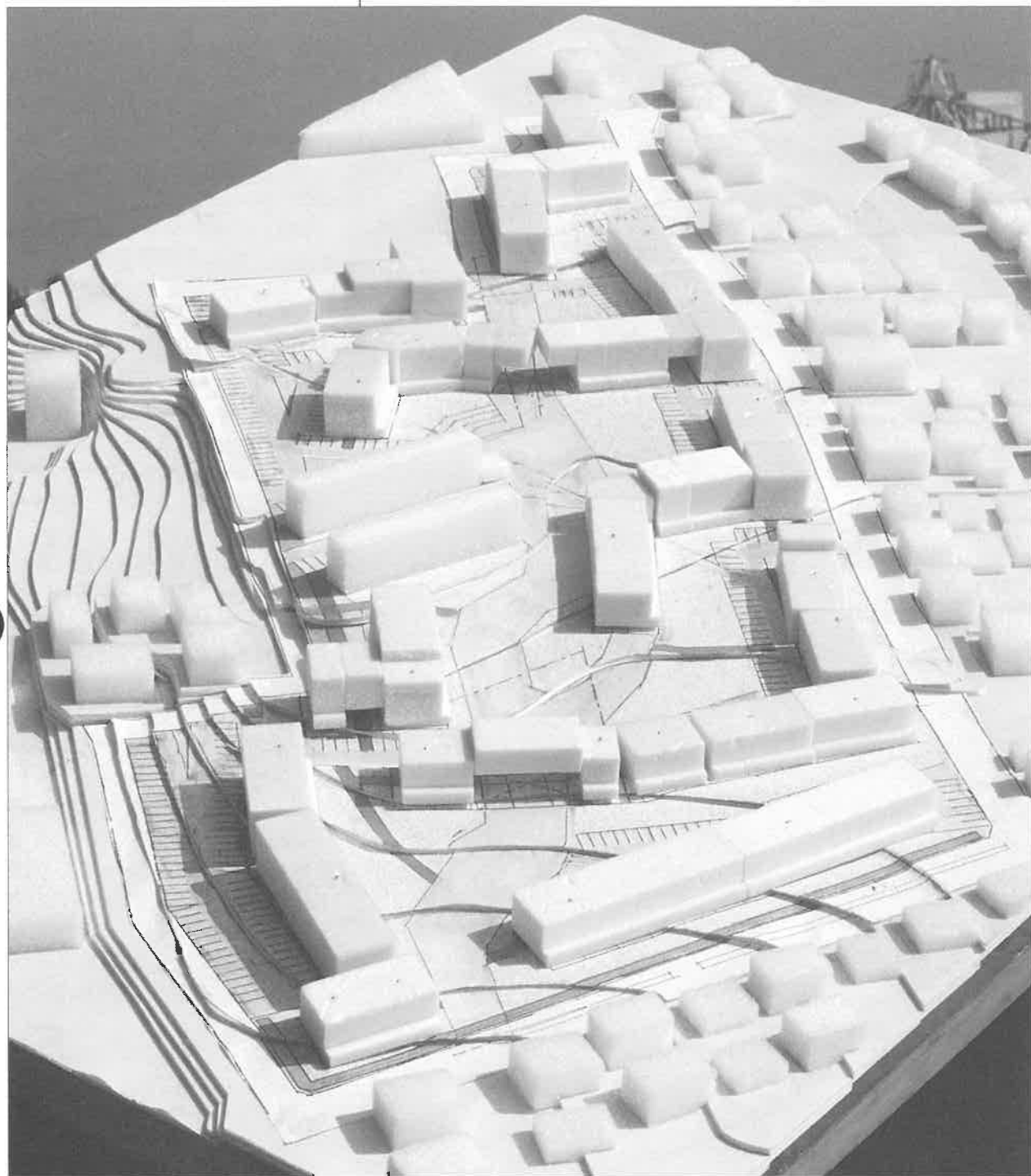
大きく曲線を描く配置により、ほどよく包まれた感覚を持ちながら、それ自身が内側の空間を包み込む。

(上田憲二郎)

基本設計期間 1988年10月~1989年3月
実施設計期間 1989年4月~1990年3月
主な外部仕上げ
屋根 鉄筋コンクリート打放しの上シート防水
外壁 鉄筋コンクリート打放し、吹き付けタイル
主な内部仕上げ
床 鉄筋コンクリート直押さえ
壁 シナベニヤCL、コンクリート打放し
天井 コンクリート打放しの上VP吹き付け

熊本市営託麻団地

設計 坂本一成研究室+長谷川逸子
+松永安光
所在地 熊本市新南部町33
主要用途 共同住宅



10

●熊本市営託麻団地
主要用途 共同住宅
設計 坂本一成研究室+長谷川逸子+松永安光
構造 鉄筋コンクリート造（壁式ラーメン構造）
敷地面積 40,000m² / 建築面積 6,600m²
延床面積 26,000m²
地上3~4階建 / 最高の高さ約12m / 主な階高2.7m

地域地区 第二種住居専用地域
基本構想期間 1989年1月~1989年10月
基本設計期間 1989年1月~1989年10月
実施設計期間 1989年10月~1990年3月
施工期間 1990年~1991年(1期)
1991年~1992年(2期)
1992年~1993年(3期)



11

左ページ 全体模型
上 坂本一成研究室、中 長谷川逸子、下 松永安光

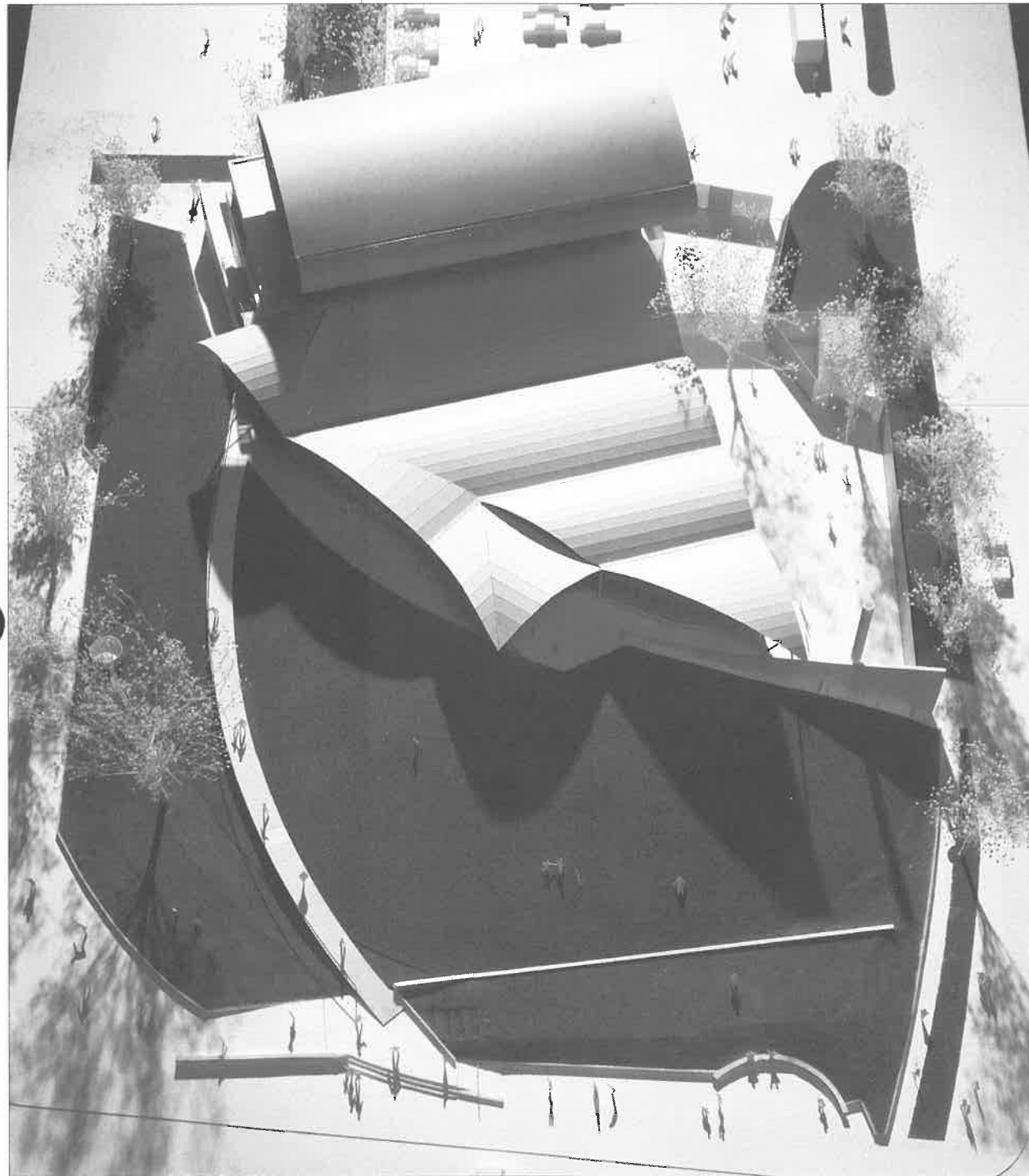
02

八代市立博物館

設計 伊東豊雄建築設計事務所

所在地 熊本県八代市

主要用途 博物館

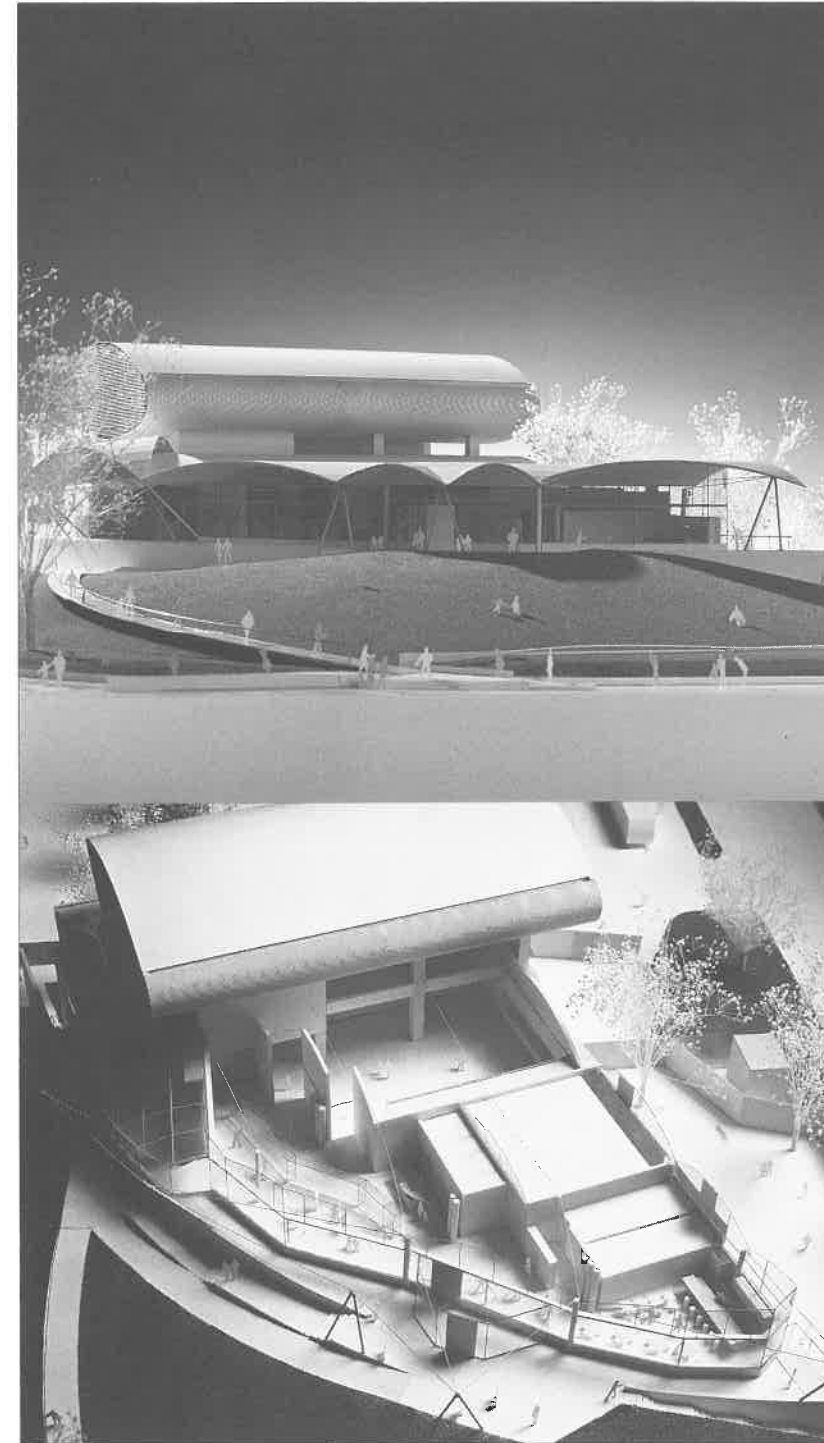


12

●八代市立博物館
 主要用途 博物館
 設計 伊東豊雄建築設計事務所
 構造設計 木村俊彦+木村俊彦構造設計事務所
 設備設計 井上宇市+井上研究室、大滝敦也+大滝設備事務所
 外構デザイン協力 ナンシー・フィンリー

構造 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
 建築面積 1,437m²/延床面積 3,420m²
 地上4階、地下1階/最高の高さ19.4m/主な階高 4.8m/主なスパン8m
 地域地区 住居地区
 道路幅員 東6m、西8m、南6m、北21m
 基本構想期間 1988年10月～1988年12月
 基本設計期間 1989年1月～1989年4月
 実施設計期間 1989年5月～1989年7月
 施工期間 1989年11月～1991年春 (予定)

主な外部仕上げ
 床 セラミックタイル貼り、芝植込み
 屋根 ステンレスシーム溶接工法
 外壁 コンクリート打放しの上フッ素樹脂塗装、アルミパネル、ステンレスパネル張り
 主な内部仕上げ(第一展示室)
 床 タイルカーペット敷き
 壁 プラスターボードの上アンティコスタッコ塗装
 天井 有孔ボード張りVE



13

八代市立博物館は歴史を広く市民や県内外の人びとに紹介するために計画された施設である。敷地は八代城址にほど近く、松井家の茶室松浜軒に面した公園内に置かれるので、周辺環境との調和には十分な配慮がなされた。すなわち、閉鎖的でもっとも大きなヴォリュームを占める常設展示室、松井文庫展示のための第2常設展示室を1階に配し、その前面に土を盛って前面道路側に緩やかな芝生のスロープを設けている。したがって、2階の特別展示室やレクチャーホール、比較的オープンなエントランスホールやカフェは、この人工の丘の上に配置されているかのように見える。これらの施設は軽快な宙に浮かぶようなステンレスのポルト屋根に覆われている。また、収蔵庫は未来の蔵として博物館をシンボライズするように空中高く持ち上げられ、水平のラインが強調されている。このように水平性やヒューマンなスケールで環境に調和すると同時に、未来的な建築の尖鋭性を兼ね備えることが意図された。(伊東豊雄)

模型写真撮影 大橋富夫

02

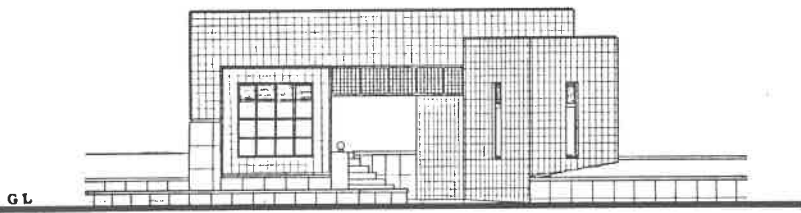
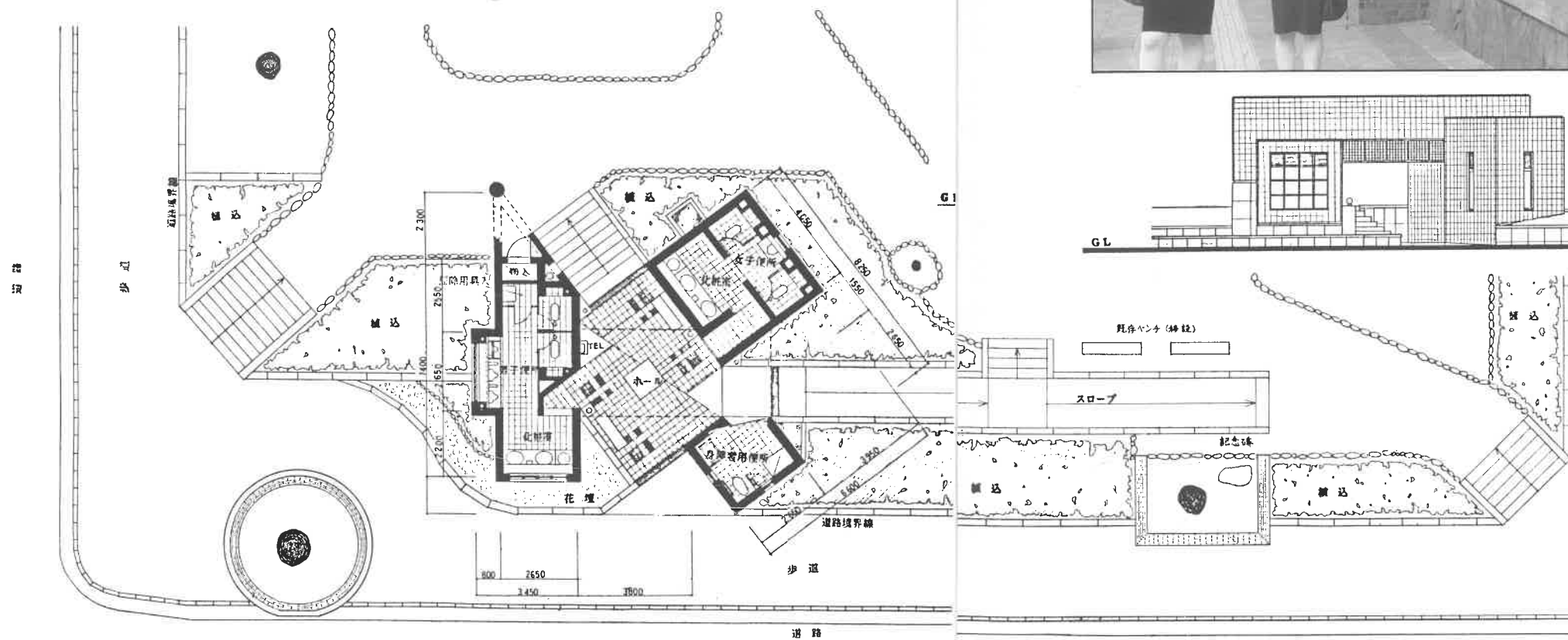
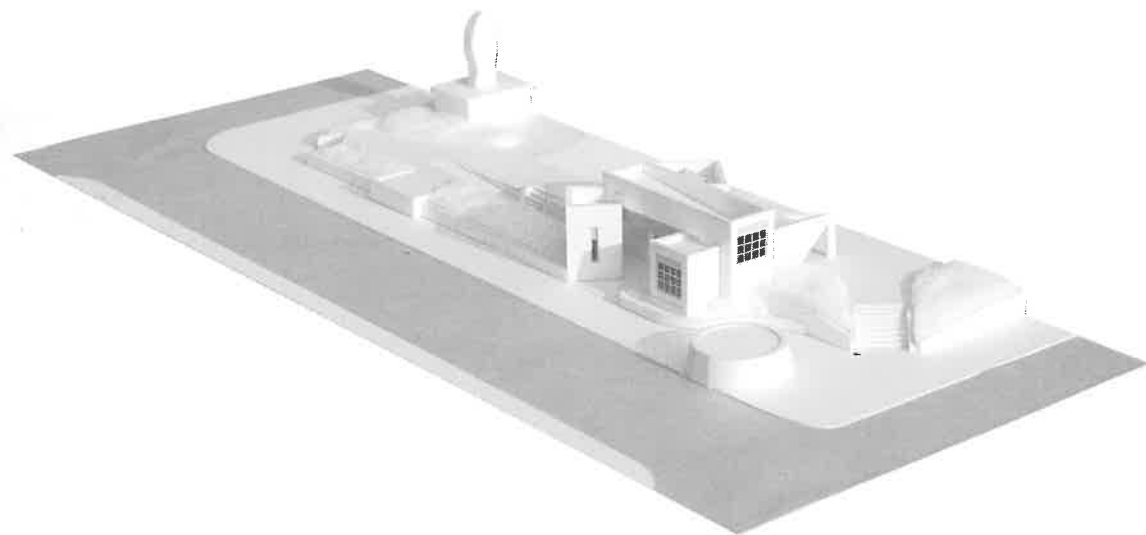
熊本市公衆便所(花畑公園)

花畑パークトイレ

設計 大塚豊一

所在地 熊本市花畑町6

主要用途 公衆便所



この公衆トイレは、熊本市が現在進めている、城下町としての都市修景計画事業の一環として企画されていた。また、設計にあたってのトイレの外観は、熊本城、特にその石垣を念頭においてデザインすることを義務づけられた。

敷地は、歴史的に由緒ある花畑公園の一角で、その公園は楠やムクの大木が鬱蒼と生い茂っており、三方を囲む街路面より約1.5m程高くなっている。

そこでトイレの床レベルは街路と同じ高さとし、街路、公園双方からのアプローチが可能となるように、男子、女子、多目的便所をそれぞれ別棟とし、それらが中庭を形作る配置計画とした。中庭はトイレの出入り口と街路の緩衝空間でもある。

外観は、石組のオブジェとしての幾何学的構成であり、ファサードとしては特別の考慮はしていない。

平面計画は、正方形の九分割を基本に形態操作を行なった結果である。一方、内部ではブース内における機器の細かい納まりなどに、種々の工夫を凝らしている。(大塚豊一)

●熊本市公衆便所(花畑公園)花畑パークトイレ
 主要用途 公衆便所
 設計 大塚豊一建築設計研究所
 構造設計 瀬崎正博(祐建築事務所)
 設備設計 本田吉伸(本田設備設計事務所)
 施工 大見建設
 電気設備 嶋野電設、西山電工
 機械設備 九州環境保全

構造 鉄筋コンクリート造(壁式構造)
 敷地面積 2,619m²
 建築面積 51m²/延床面積 43m²
 地上1階/最高の高さ5.34m/主な階高3.60m
 主なスパン2.65m
 地域地区 商業地域(都市公園内)、防火地域
 道路幅員 東36m、西27m、南11m
 基本構想期間 1988年11月~1988年12月
 基本設計期間 1988年12月~1989年1月
 実施設計期間 1989年1月~1989年3月
 施工期間 1989年5月~1989年10月

主な外部仕上げ
 床 無輪磁器質タイル貼り
 屋根 塗膜防水
 外壁 無輪磁器質タイル貼り
 主な室内仕上げ(男、女、多目的トイレ)
 床 施輪磁器質タイル貼り
 壁 施輪磁器質タイル貼り
 天井 アクリルルーバー張り

左ページ 模型写真
 右ページ上 花畑公園周辺、下 道路側立面図、配置図